

重かさねて楓橋ふうきょうに宿しゆくす（張繼ちようけい）

白髮重来一夢中 青山不改舊時容  
鳥啼月落寒山寺 欹枕猶聽半夜鐘

白髮はくはつ重かさねて来きたる一夢いちむの中うち

青山せいざん改あらたまらず旧時きゆうじの容すがた

鳥からす啼なき月つき落おつ寒山寺かんざんじ

枕まくらを欹そはだてて猶なお聽きく半夜はんやの鐘かね

解説 張繼が再び蘇州を訪れて「楓橋夜泊」を思い出して作った詩と言われる。

語釈 ※青山＝青い山。※旧時容＝昔のままの姿。

※鳥啼：からすが啼くこと。※寒山寺＝蘇州の西郊七里の所にある寺。※猶＝そのうえに。※半夜＝夜中。

通釈 しらが頭になってふたたびこの地にやって来た。夢の中にいるようだ。周囲の青い山はまったく昔のままの姿であった。鳥が啼き、月が西に傾くころ、寒山寺から今夜も夜半の鐘が響きわたってきたので、枕をななめにして聴き入ったことである。